

学校教育目標「高い志をもち未来を拓く子どもの育成」

## 楠目小だより

香美市立楠目小学校

平成 30 年 7 月 19 日 No.10



### ～よってたかって教育～

6月29日にJICA（独立行政法人 国際協力機構）よりの要請でセネガル、ジブチ、マリ、マダガスカルなどアフリカ6か国の教育関係者が本校に視察に来られました。

研修の目的は、本校の教育視察と地域がどのように子どもの教育に携わっているのかを知りたいということでした。

アフリカの先生方には子どもたちの授業の様子も参観していただきました。どの授業にも興味があり、1年生のダンスの授業では体を動かしたりして楽しそうに参観していました。2, 3年生の算数の授業では「授業スタンダード」にそって、子どもが主体的に学んでいくことに関心を寄せていました。また、家庭学習のあり方についての質問もありました。

4年生の理科学習は電池で動く自動車の実験に興味をもったようでした。5年生では外国語活動の授業を参観しました。6年生の短歌づくりの授業では「吉井勇記念館」の山中館長さんが講師の授業でした。日本の伝統文化の一端を知っていただくことができたかなと思います。

授業参観後には、つくしとすみれ学級の子どもたちが作ってくれた「白玉ポンチ」のもてなしに感激していました。皆さん、子どもたちが実際に学習している様子を視察できたことを喜んでおられました。

また、アフリカの国にも本校と同様に子どもを支援する学校支援地域本部のような組織があり、地域や保護者が学校支援を行っているということでした。地域支援コーディネーターの三谷さんにも協議に入っていたいただき、地域や家庭が楠目小の子供のために行っている支援について紹介していただきました。

最後に香美市の「よってたかって教育」の話となりました。「よってたかって教育」とは香美市が進めている「家庭、地域が学校を支援しながら協働して、一緒に子どもを育てる教育」のことです。そのことが、香美市教育委員会訪問時より心に残っていたようで、各先生方が「よってたかって！」と何度も言われていたことが印象に残っています。家庭、地域、学校がそれぞれの立場で子どもの教育を担い、子どもたちを育てていくことの大切さを、国を超えて感じたことでした。



アフリカの先生方、喜んでくれるかな。